



2025年度第2四半期決算説明会

株式会社スリー・ディー・マトリックス(証券コード:7777)
2025年12月

売上成長率

+47%

上半期営業利益

3.6億円

增收増益、黒字化計画が着実に進捗

- ◆ 上半期売上高は48.0億円（前期比+47%）。米国の高成長が継続。
- ◆ 営業利益は3.6億円（計画比+3.5億円）。增收と費用削減により大幅な増益を達成。
- ◆ 2025年度通期計画（営業利益4.0億円）に変更はなし。

2025年度第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況
2. 開発状況
3. ご参考:会社紹介

2025年度第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

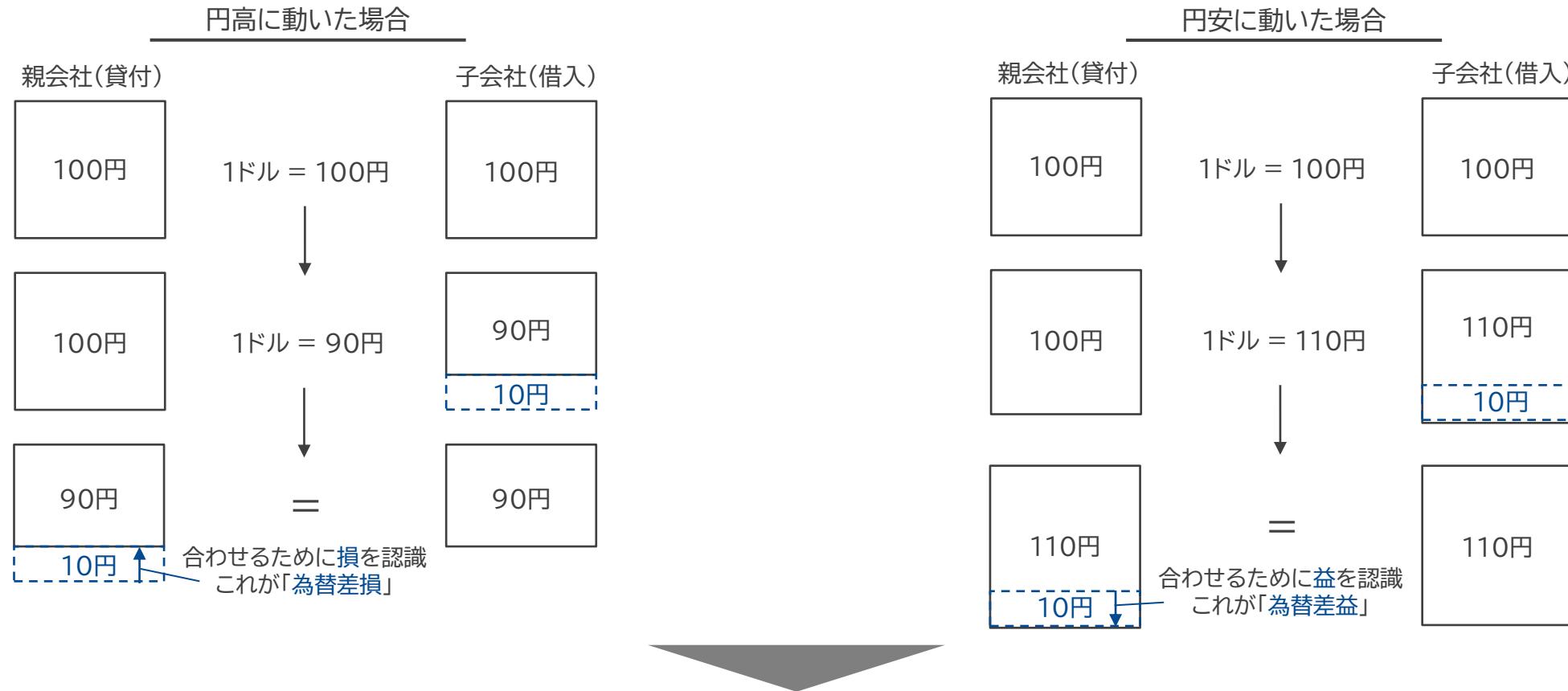
損益計算書の概要

(単位:百万円)	2025 Q2	2024 Q2	増減	
売上高	4,807	3,274	+1,503	◆ 売上高は前年同期比約47%増。
売上原価	1,103	960	+143	
粗利益	3,704	2,314	+1,389	◆ 粗利は前年同期比約60%増。
粗利率	77%	71%	+6%	
研究開発費	321	289	+32	◆ 営業利益は前年同期比約9億円を改善し、 計画を約3.5億円上回って着地。
販管費	3,021	2,557	+464	
営業利益	360	△531	+892	◆ 円安による子会社貸付金等の為替差益により、 経常利益以下も黒字。
経常利益	2,029	△796	+2,827	
当期純利益	1,717	△805	+2,523	

This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

(再掲)為替差損益が発生する仕組み

子会社に対し外貨建てで貸付をしているため、為替レートの変動に応じて貸付金の金額が変動する。
変動した金額を為替差損益として認識している。そのため経常利益以下に為替に連動した変動が生じる。



財務諸表上の損益であり、事業上のコストの増減やキャッシュイン/アウトが発生するわけではない
→ 営業利益をより重視して頂きたい

貸借対照表の概要

(単位:百万円)	2025 Q2	2024 Q2	増減
流動資産	6,719	6,609	+110
現金及び預金	1,579	2,068	△489
売掛金	2,355	1,413	+941
たな卸資産	2,498	2,918	△420
その他	285	210	+78
固定資産	78	94	△15
資産合計	6,798	6,703	+94
流動負債	1,678	1,241	+437
借入金	300	300	0
その他	1,378	941	+437
固定負債(転換社債等)	1,166	3,555	△2,489
負債合計	2,844	4,896	△2,052
純資産	3,954	1,807	+2,146
負債・純資産合計	6,798	6,703	+94

◆ 売上増に伴い売掛金が増加。

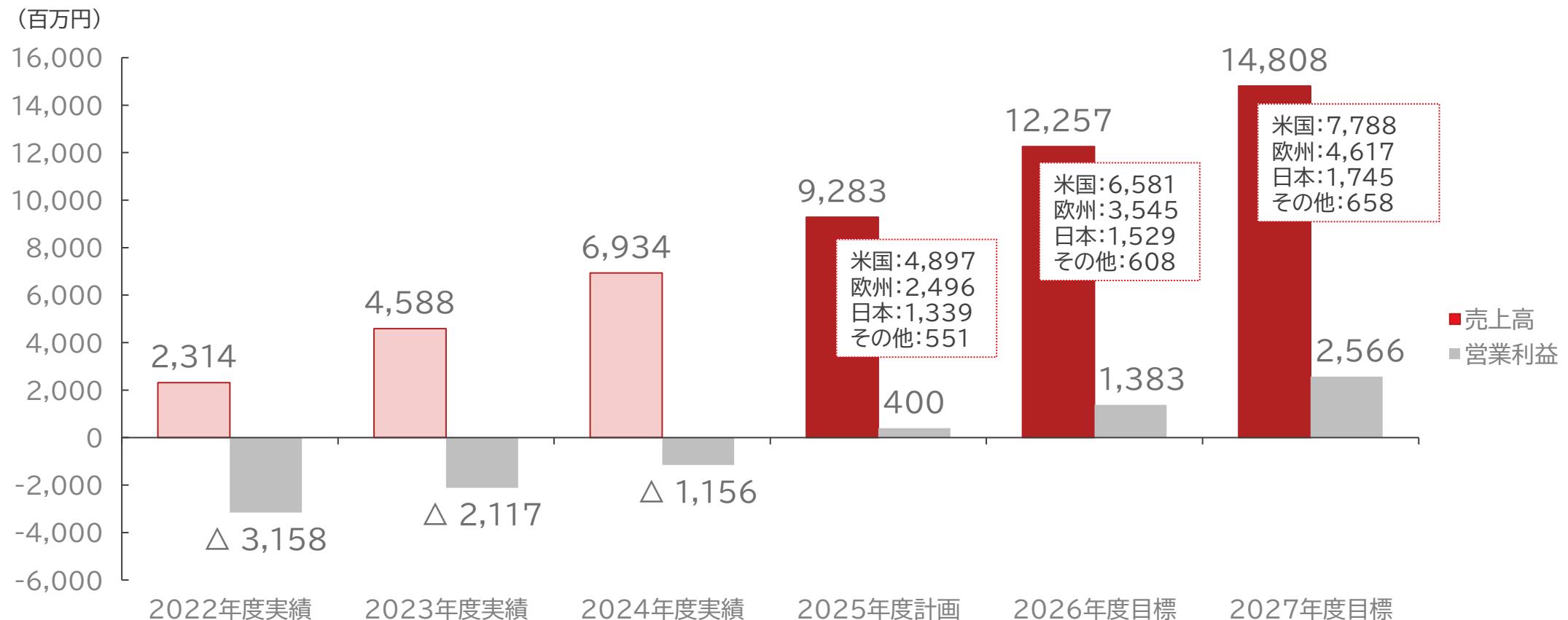
◆ 転換社債の転換が進み固定負債は減少。

◆ 純資産は約21億円の増加。

実績推移と3か年の計画と目標

2025年度での営業黒字化を計画、その後、営業利益を拡大させていく目標。

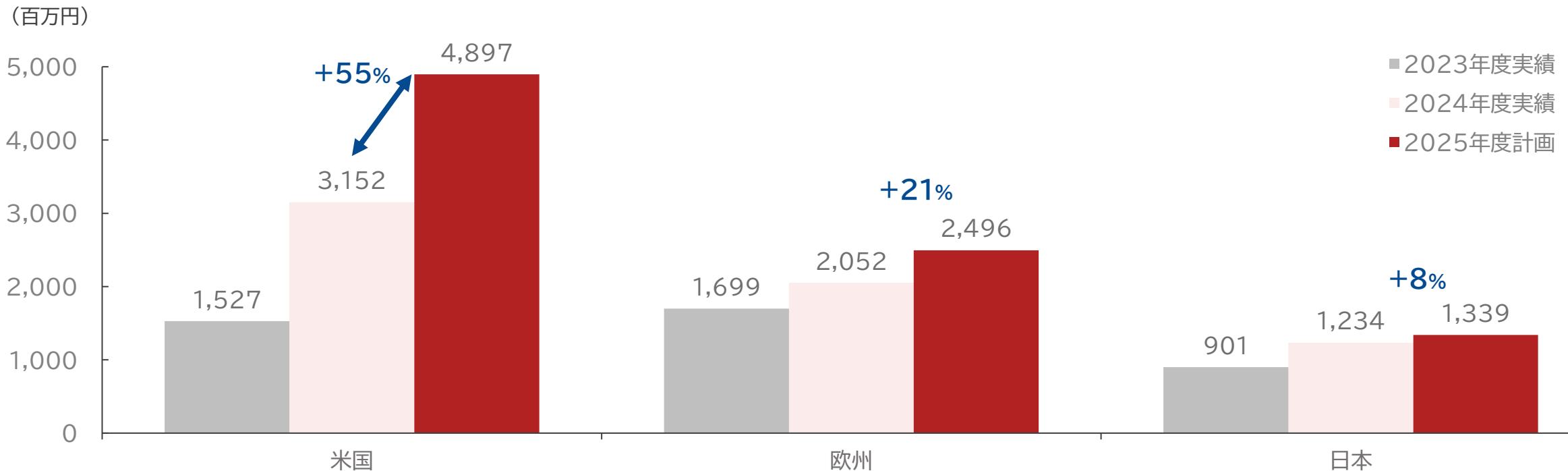
売上高と営業利益の実績推移と計画



This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

エリア別の売上計画

過去の成長も踏まえ合理的な売上計画を策定。今期も米国が成長に大きく貢献。



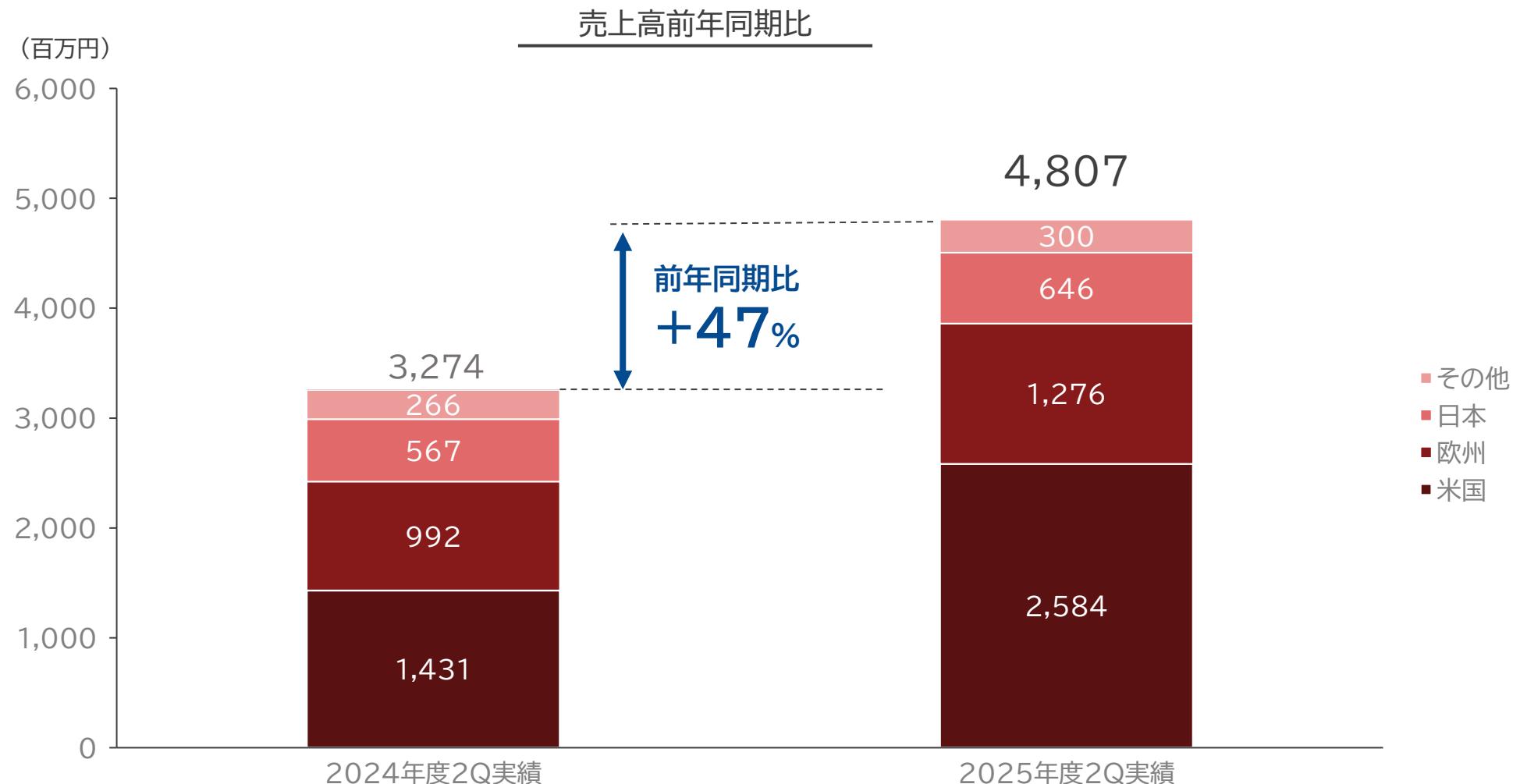
- 今期成長のための営業リソースは拡充
- 営業人員当たり売上高が維持される前提
- いまだ数倍の成長余地あり

- 大きな営業リソース追加を行わない
- ドイツなど2024年度に伸びなかつた国は成長を見込まない
- 耳鼻咽喉科、泌尿器科領域での成長を継続させる

- 大規模病院の力バレッジは既に高い
- 新規顧客獲得による成長は縮小
- 既存顧客の使用本数を増加させる

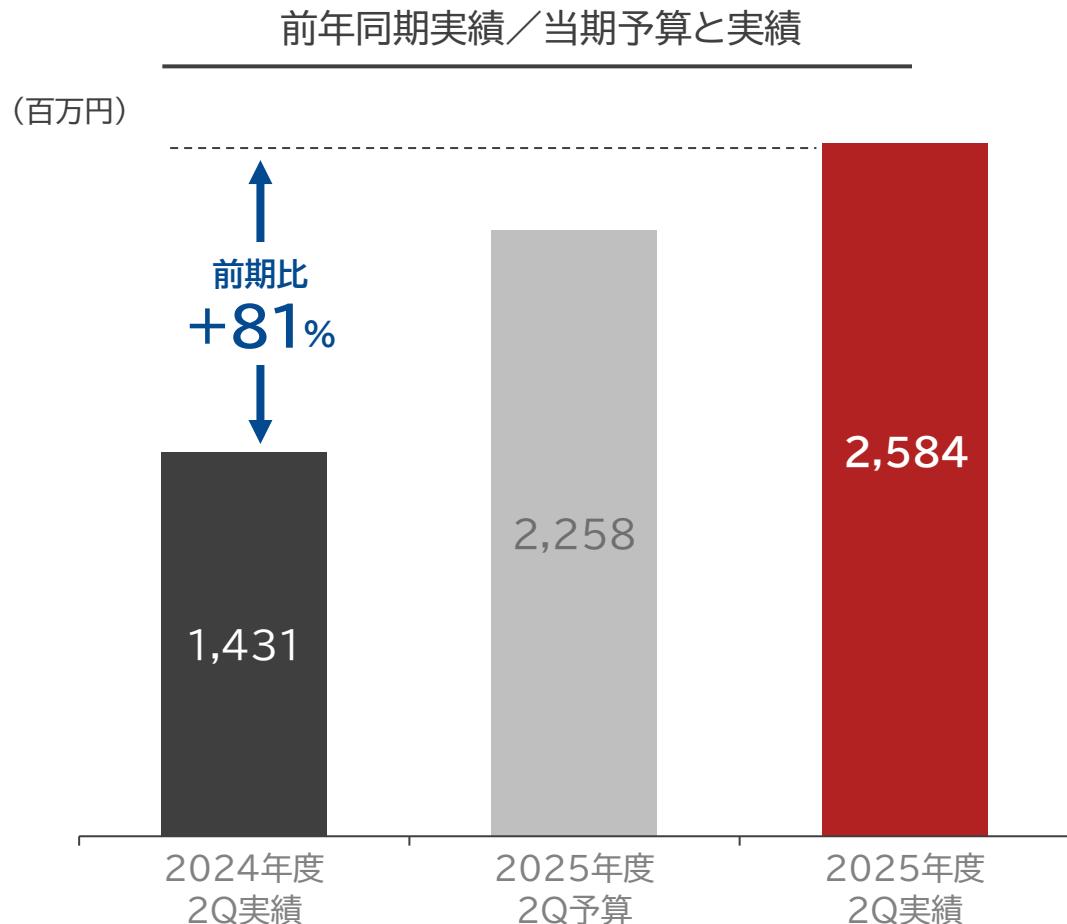
売上高前年同期比

特に米国での高成長が貢献し、前年同期比で売上は47%増となった。



販売活動の進捗:米国

Q2もQ1に続き高い成長を継続; GI, ENT共に順調。



消化器内視鏡領域(GI)

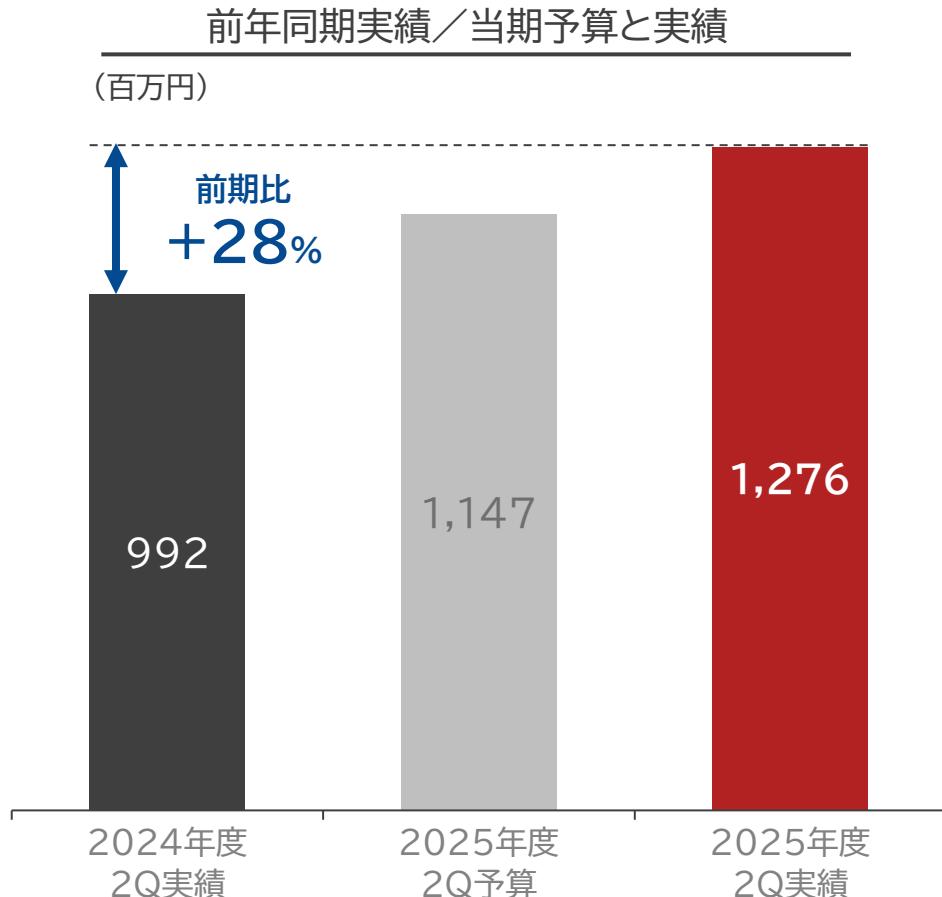
- 期初に加わった営業人員が新規顧客獲得・売上成長に貢献することで成長勢いが継続
- 事業規模拡大とマスセグメント攻略の進捗に伴い全般的な難易度は上がっているが、KOLを巻き込んだエビデンスの拡充や社内教育のレベル向上等による営業の質向上を実現することで対応
- 今期新しく注力している小児セグメントにおいてもピュアスタッフの製品価値が浸透しつつある状況

耳鼻咽喉科領域(ENT)

- Q2もQ1に続き最高売上を更新; 新規顧客獲得と既存顧客の使用拡大が共に進捗
- 今後も引き続き規模の大きな市場・アカウントにフォーカスすることで営業効率を維持し、貢献利益の黒字と事業成長をバランスさせることを志向

販売活動の進捗: 欧州

耳鼻咽喉科と泌尿器科での販売が大きく進み、昨年同期から28%の成長を達成。



消化器内視鏡領域(GI)

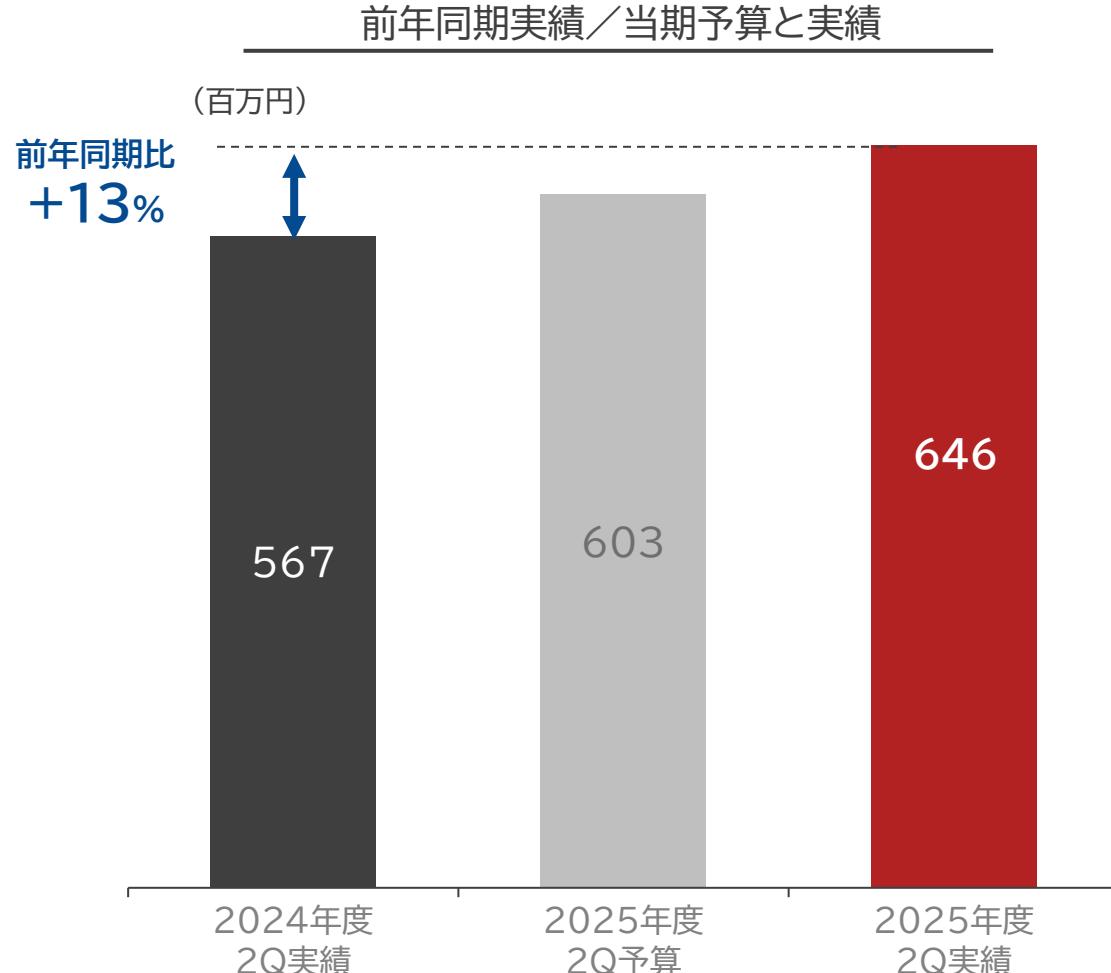
- 英では人員の追加投入により、病院での使用量増加活動がより大きく進み、成長が加速
- 独では改善施策が部分的に機能し始め、過去最大の売上を記録
- 伊では現地二次代理店の新社長の方針で在庫の圧縮が行われ、この影響で、一時的に伊の売上が減少

その他の領域

- 耳鼻咽喉科では、頭頸部領域の使用が更に加速
- 泌尿器科では、前立腺肥大の手技専用ロボットの入っている病院を攻め、放射性膀胱炎や腎臓部分切除などにも使用を拡大

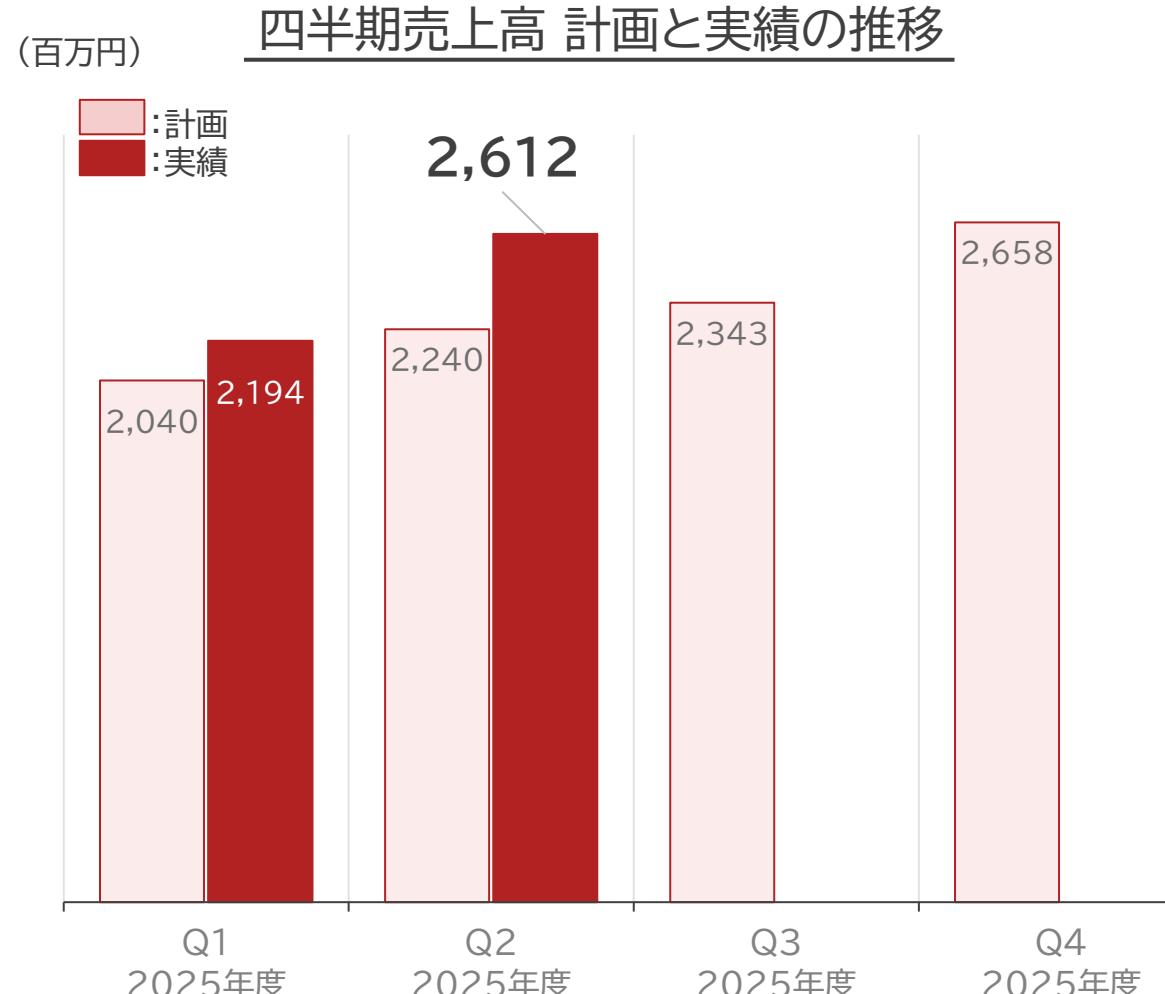
販売活動の進捗: 日本

継続して成長を維持しており、貢献利益の黒字拡大を達成。



- 当社製品の市場への浸透が進んでいるため、新規獲得顧客数が減少しており、また、新規顧客の規模も小規模化している
- 既存顧客の製品使用量が徐々に増えており成長を継続
- 競合となりうる製品(粉末を吹き付けて止血)が販売を開始しており、今後の動向を注視している

四半期売上高

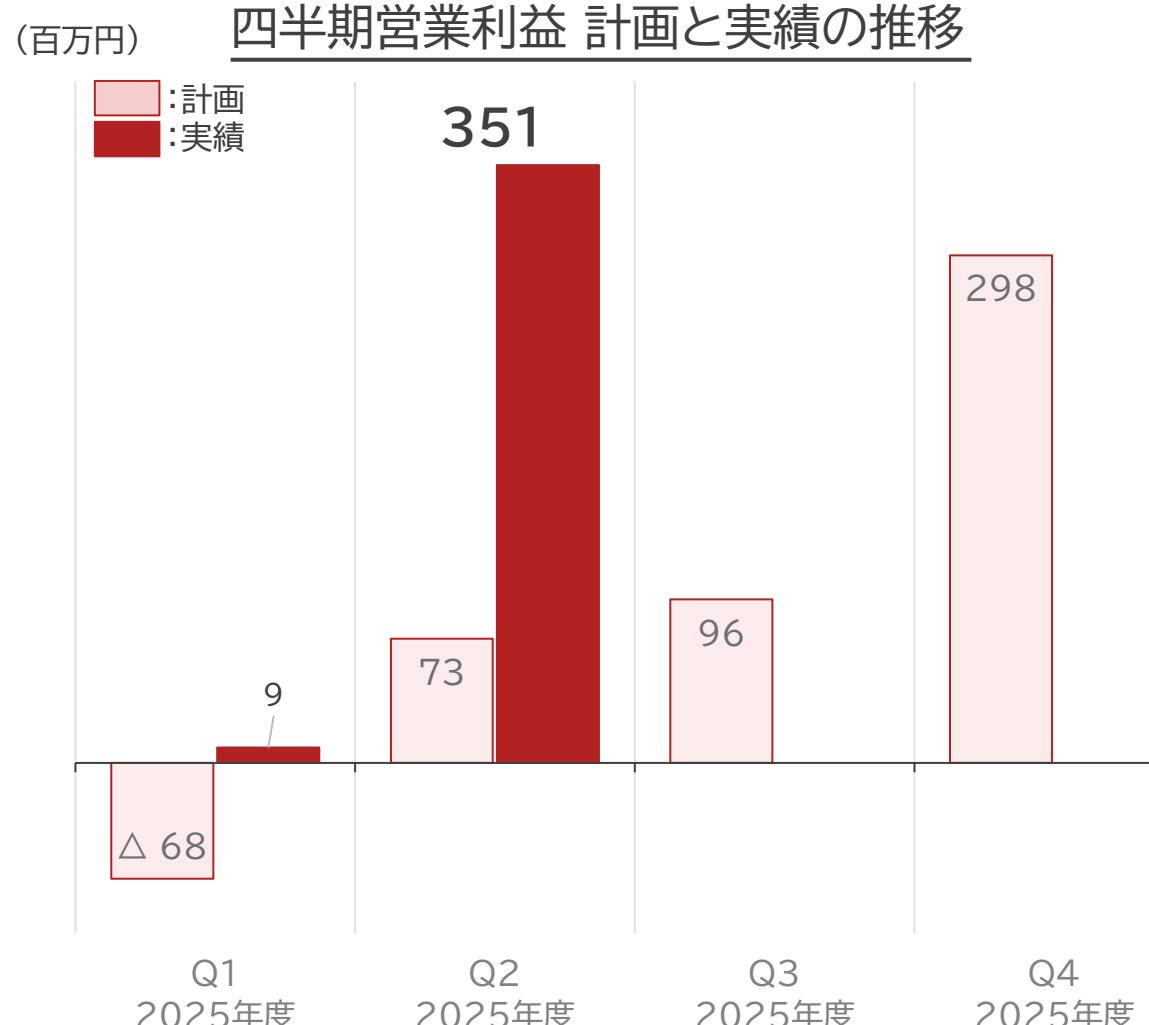


対計画(累計)

+12%

- ◆ 各極での営業展開が順調に進捗しており、累計売上高は対計画で5.2億円、12%の上振れ。

四半期営業利益



対計画(累計)

+3.5億円

- ◆ 売上の増加に伴って、累計営業利益は約3.5億円計画超過し大幅増益で着地。

2025年度第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
小児の心臓手術の止血	小児向けに承認を受けている安全な止血材がない。塗布後に膨張せず、術後癒着が抑えられ、狭い領域でも視野が確保されることが臨床ニーズ。ピュアスタッフは第一候補になりうる。	欧州、米国で承認申請準備中、欧洲における臨床データ収集終了、解析中。
口腔咽頭の止血	ピュアスタッフで止血することで、焼灼止血に起因する組織障害が減り、術後の痛み軽減、手術部位に留置したドレーンからの排液量が減少し早期の抜管、早期の退院が可能。病院において大幅なコスト削減となりうる。	欧州において販売中。論文公開済。 米国申請データ取得のための臨床研究を実施中。
オスラー病(HHT)の止血(鼻)	オスラー病は遺伝性の疾患で約8割は繰り返す鼻血をきたす。鼻血の止血処置は都市部の病院で対応するため、地方に住む患者は長時間かけて通う必要がある。在宅医療にてピュアスタッフを用いることにより、患者QOLを向上させる。	欧州では臨床研究を準備中。米国では既に承認を取得し販売中、十分な有効性が確認された場合には、HHT治療用製品としての承認申請を予定。論文発表済。
生検後の止血	経内視鏡の生検鉗子による組織採取では肺等部位によって出血した場合、有効な止血手立てがなく十分なサンプルの取得が困難。ピュアスタッフはこれら止血困難な部位にて使用可能であり十分量のサンプル取得を可能とする。	米国承認申請準備中。
前立腺肥大手術の止血	ロボット手術で肥大部を削る際に出るウージングの経尿道カテーテルによる止血。焼灼を減らすことにより術後に男性生殖機能を低下させることを防げる。	欧州で販売中。欧州で論文準備中(米国承認申請のため)。米国にて承認申請準備中
脳外科における止血(次世代止血材)	経鼻の内視鏡による脳手術において、焼灼以外で使える唯一の止血材となる可能性。当社が独自に開発した新規ペプチドを用いる。	当初は2025年4月に承認予定であったが、 審査が長引いている。

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
内視鏡用粘膜下注入材 (ピュアリフト)	消化器内視鏡的に腫瘍を切除する際、病変部を挙上させる目的で粘膜下に注入する。粘膜下注入後にゲル化するため、注入しやすく、治療中の粘膜切開・剥離によっても流出しにくいため、腫瘍を切除しやすくなる。注入量や注入回数も減少できる可能性があり消化器内視鏡治療の質の向上に貢献できる。	薬事承認時の製造所との契約解除により、現在販売を中止している。新規製造所と契約締結済。製造開始に向けて準備中。 米国において申請準備中。
放射線直腸炎の治癒	放射線治療の副作用。難治性の潰瘍と出血。現在は治療法がないアンメットの状態。ピュアスタッフを塗布することで潰瘍の治癒が観察されている。	米国においては承認済で販売中、臨床研究計画中。欧州の内視鏡学会で論文発表済。欧州ガイドラインにピュアスタッフ追加済。欧州での承認を目指し、欧州で臨床研究において症例蓄積中。
放射線膀胱炎の治癒	放射線治療の副作用。難治性の潰瘍と出血。現在は治療法がないアンメットの状態。ピュアスタッフを塗布することで潰瘍の治癒が観察されている。	欧州で実施された臨床研究データの一部が学会発表済。米国にて承認申請予定。
炎症性腸疾患の粘膜の治癒	消化管の難治性炎症。原因不明で、一度発症すると再燃と寛解を繰り返し、生涯治療が必要となる特定疾患。現在多数の抗炎症剤が用いられているが、粘膜を治癒することで治療効果があがる可能性。ピュアスタッフで粘膜の治癒を目指す。	米国にて臨床及び基礎データの収集を進め、ピュアスタッフの作用機序の解明および治癒効果を検証する。群馬大学で症例組み入れ中、5例終了。(症例報告論文準備中)札幌医大で症例組み入れ中

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
粘膜の創傷治癒	消化管、尿道、膀胱、鼻腔等の粘膜の創傷治癒材としての有効性はこれまでに様々なスタディで確認されている。薬事承認を得ることで拡販につなげ、また難治性炎症のさらなる症例蓄積につなげる。	欧州にて申請準備中。 米国ではFDAとの協議により申請カテゴリーを510K申請からDe Novo申請に変更して再申請準備中。
放射線治療用吸収性組織スペーサ	前立腺がんや子宮がんの放射線治療の際に、直腸へのダメージを減少させることを目的として、直腸と前立腺や子宮の臓器間に経皮的に注入される。当社ペプチドの生体分解性と高い生体適合性がニーズにマッチすると考えられる。特に子宮がんで注入可能なスペーサは国内未承認であり、早期の開発が待たれている状況。	日本で大学と共同研究中。 動物実験終了。臨床応用検討中。
食道狭窄予防	予防方法の確立していないESD後食道狭窄に対して、内視鏡的塗布による、防止効果を実証。後出血や瘢痕化による創傷治癒の遅延も抑制。	欧州においてレジストリーが開始。広島大学で臨床研究患者20例の組入れ終了、解析後、論文投稿予定。
嚥下障害予防	咽頭癌の抗癌剤/放射線治療後に実施する内視鏡下咽喉頭手術後の嚥下障害はQOLの悪化を招くが予防方法が存在しない。この嚥下障害に対し、内視鏡的塗布による予防効果を目指す。	広島大学、関西医科大学において特定臨床研究実施中。
口腔粘膜炎	がん治療における化学療法、放射線療法、および造血幹細胞移植で発生する口腔粘膜障害は著しくQOLを低下させる。ピュアスタッフにて予防及び治療が期待できる。	米国では承認取得済で販売中。 臨床研究計画中。日本において臨床応用検討中。

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
心筋機能低下の回復(再生)	注入型の心筋機能回復デバイスとしての開発を目指し、当社ペプチドにより心筋再生の足場環境を構築するとともに、幹細胞および成長因子タンパク質との混合注入による心筋再生の促進を確認した。	米国ハーバード大学より論文公開済。
骨充填材(再生)	当社ペプチドを骨再生の足場材料とし、患者本人の体液由来の成長因子を保持させることで低侵襲かつ注入可能な骨再生充填剤としての開発を目指す。歯槽骨再建にとどまらず、腫瘍切除後などの大型な骨欠損への再生材料を目指す。	既承認の骨充填材との併用も可能な移植担体として、米国での承認申請準備中。
DDS (既存薬剤のスローリリース)	当社マテリアルを抗生物質やステロイド等の薬剤と混合することにより、持続的な薬剤放出が期待できる。適用範囲については耳鼻咽喉、消化管、心血管、皮膚領域等多岐に渡り、巨大な市場ポテンシャルを有する。	非臨床試験を進行中であり、幅広い薬剤との併用が可能なドラッグデリバリー担体として、米国にて種々の領域について承認申請検討中。
乳がんを対象とした siRNAのデリバリー	がんの悪玉とされる「がん幹細胞」を抑制するsiRNAを、当社ペプチドでドラッグデリバリーすることで、腫瘍縮小だけでなく乳がんの再発や転移抑制にも寄与することも期待して開発中。国内治験において、ヒトへの安全性と腫瘍抑制メカニズム発揮を確認。	全身投与に最適化したDDSペプチドを開発中。トリプルネガティブ乳がんにおいて特に予後の悪いフェノタイプと、RPN2発現プロファイルの相関解明に向けた研究を複数の研究機関にて実施中。

直近で追加された／現在アクティブなプロジェクト

プロジェクト	ニーズと特徴	状況
悪性胸膜中皮腫を対象としたmiRNAのデリバリー	アスベスト(石綿)に暴露された後、数十年の潜伏期間を経て発症するがん。症例数は向こう10年間増え続けるとされている。発症後は薬剤療法に決め手がなく、非常に侵襲性の高い外科手術をしても予後が悪い。マイクロRNA(miRNA)を、画期的新薬として当社ペプチドでドラッグデリバリーして治療する。	導出先のPURMX社によるグローバルPhase1/2治験準備中。新たに国内において頭頸部癌に対する治験を開始。
ワクチンのデリバリー	当社ペプチドと抗原(タンパク質あるいはmRNA)を複合した徐放作用をもつワクチンで、抗体価の上昇、単回投与での抗体獲得、炎症抑制に基づく副作用の低減をめざす。さらに、内包した抗原の安定性を高め、室温保存可能なワクチンとして輸送、貯蔵でのコールドチェーンを不要にできることも期待。	米国のワクチン開発企業、北海道大学と共同研究中。

売上成長率

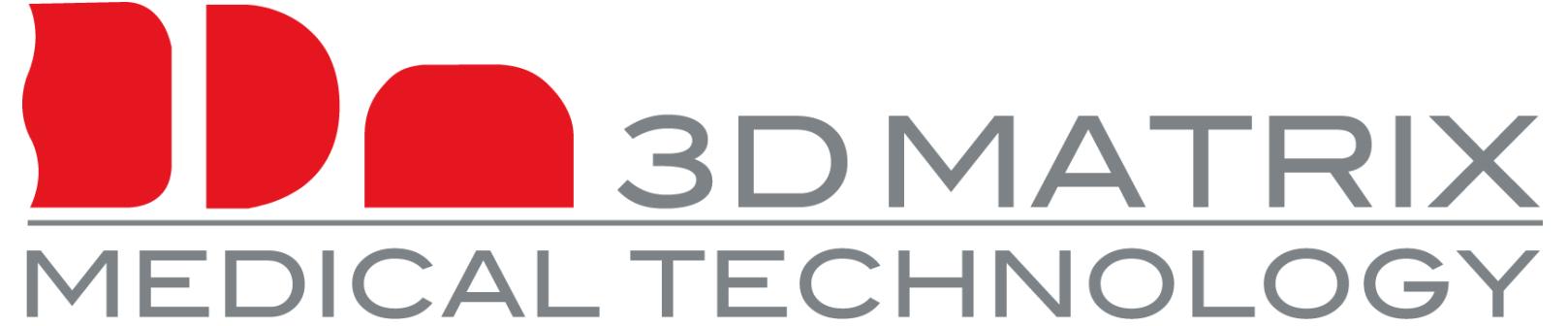
+47%

上半期営業利益

3.6億円

增收増益、黒字化計画が着実に進捗

- ◆ 上半期売上高は48.0億円（前期比+47%）。米国の高成長が継続。
- ◆ 営業利益は3.6億円（計画比+3.5億円）。增收と費用削減により大幅な増益を達成。
- ◆ 2025年度通期計画（営業利益4.0億円）に変更はなし。



ご清聴ありがとうございました

2025年度第2四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考:会社紹介

MIT発ベンチャー企業

コア技術である「自己組織化ペプチド技術」は、マサチューセッツ工科大学(MIT)の研究者により、1990年代に発明された。当社の前身となる3-D Matrix(米国法人)はMITとMITの研究者が2001年に創業。

■会社名

株式会社スリー・ディー・マトリックス

■設立

2004年5月

■上場取引所

東証グロース市場(証券コード:7777)



- Shuguang Zhang (*Head, Molecular Architecture Group, MIT*)
- Alexander Rich (*Professor, Biophysics, MIT and Harvard Medical School*)
- Robert S. Langer (*Professor, Chemical Engineering, MIT*)
- etc.

■事業内容

自己組織化ペプチドをプラットフォームとしたグローバルな医療機器の開発、製造、販売

■代表取締役社長

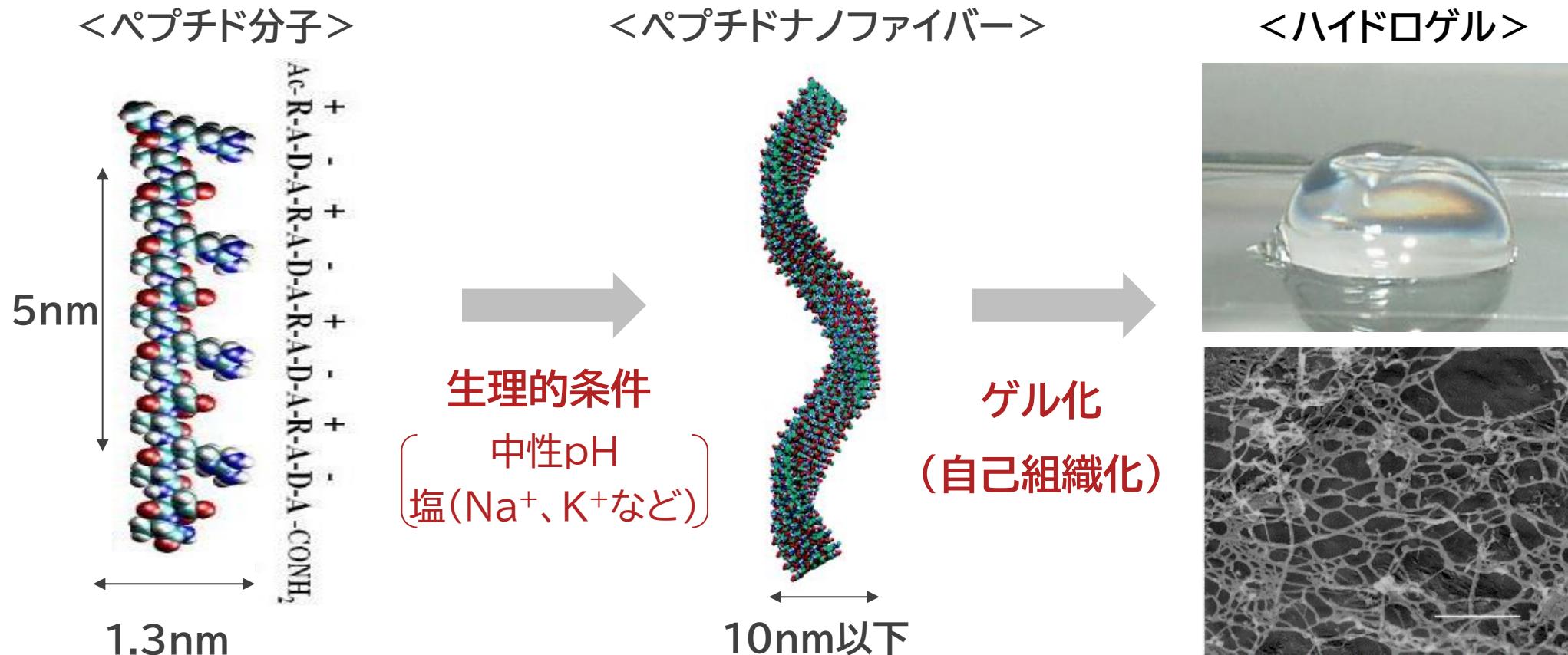
岡田 淳

■事業所

日本・アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・オーストラリア・シンガポール

コア技術「自己組織化ペプチド」

生理的条件下(人体内など)に置くことで、瞬時にナノファイバーを形成しゲル化するペプチド。その三次元構造は天然の細胞外マトリックス(ECM、コラーゲンなど)と酷似しており、多数のヒトの細胞の増殖を支える「足場素材」としての機能を持つ。シンプルな素材で複雑な機能を持たせることができるユニークな技術。



This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

3-D Matrix, Ltd

「自己組織化ペプチド」の技術優位性

自己組織化ペプチドは、人工製品と生物由来製品の良さをあわせ持つ医療用途に適したバイオマテリアル。

項目	人工製品	自己組織化ペプチド	生物由来製品
安全性 (感染リスク)	狂牛病などのウイルスを含まない。	○	○
生体適合性	人体になじみ、炎症などを起こさない。	×	○
生分解性	いずれ分解され、体外に排出され、体内に残らない。	×	○
拡張性	用途に応じて、様々なバリエーションが作れる。	○	○
品質の安定性	同じ品質で、大量に作れる。ばらつきによる不具合が起きない。	○	○
例	ポリマー、セラミック、アパタイトなど		フィブリリン、コラーゲン、ヒアルロン酸など

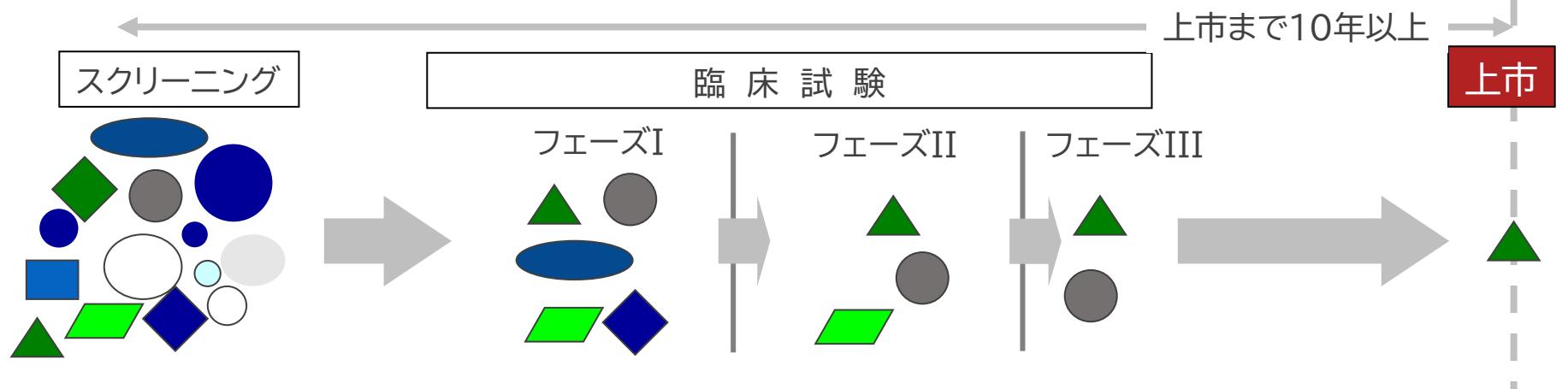
This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

3-D Matrix, Ltd

自社開発製品のため、収益を可能な限り確保するモデル

医薬品の開発：臨床試験も長く、上市まで時間・コストがかかる。1つ1つ物質が違うため応用が効かない。

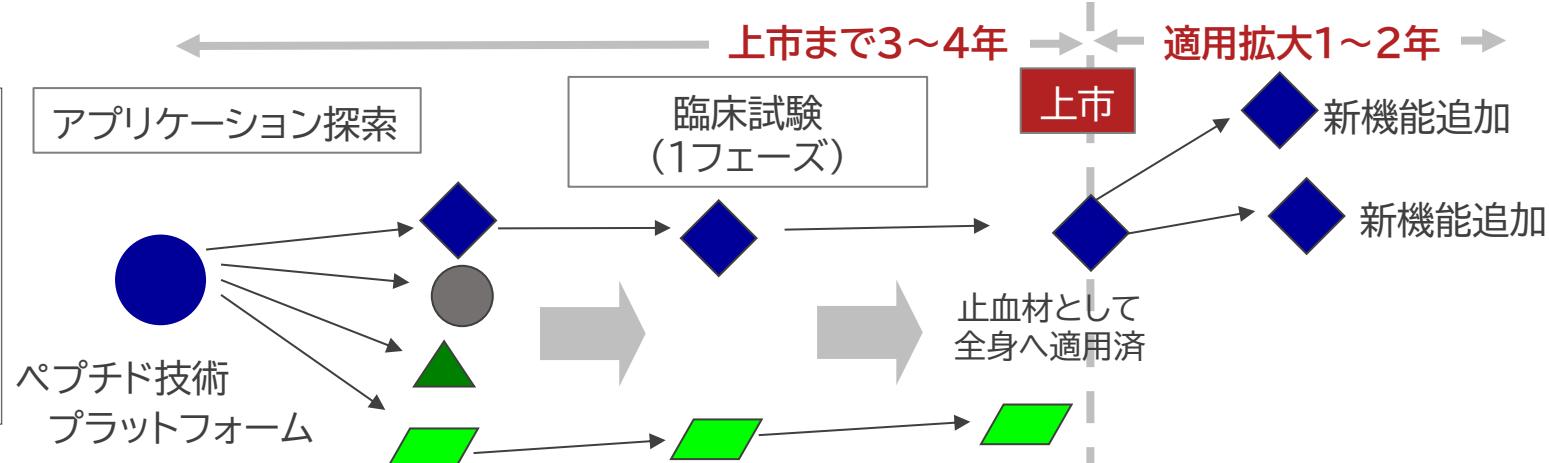
一般モデル
• ライセンスアウトが必須
• 収益の大部分が外部に流出



医療機器としての開発：上市までの開発コストが小さく、さらに適用拡大によりニーズの高い用途を継続追加。

3D MATRIX
MEDICAL TECHNOLOGY

当社モデル
• 自社で上市まで可能
• 既に全身で使われているため適用拡大が容易
• 収益のアップサイドが全て当社に残る



This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

3-D Matrix, Ltd

製品のグローバル展開

すでに日、米、欧の三極で上市製品を有し、開発リスクは小さい。
先行地域の成功事例をほか地域に適用し、市場リスクを最小化。



This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

本資料の取り扱いについて

本資料は、株式会社スリー・ディー・マトリックス(以下、当社という)をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

本資料は当社の事業及び業界動向についての当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は様々なリスクや不確かさが内在しております。既に知られたもしくは今だに知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は将来の展望に対する表明及び予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、更に悪いことも有り得ます。

本資料における将来の展望に関する表明は、本資料の作成時点において当社が入手し得る情報を踏まえたものであり、法令または取引所規則により開示義務を負う場合を除き、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。